

連戦不利祖国危 戦雲俄蔽沖繩空
慘哉絶海一孤島 居民仰天嘆空拳
遂聞海空砲爆轟 地裂山碎島形改
時健哉学園乙女 紅唇硬結殉国誓
報国純情凝如鉄 花顔纖肢当防戦
鮮血染花彈片飛 友斃肌裂心魂尽
血淚相抱洞窟裏 遙拝東天全貝玉碎
嗚呼春尚浅桜花蕾 天傷非情風声濶
哀切無限姫百合塔 可憐使人千歳泣

姫百合の塔 (唐岩泰堂)

連戦 利あらず 祖国 危うし
戦雲 俄かに 覆う 沖繩の 空
惨たるかな 絶海の 一 孤島
居民は 天を 仰いで 空拳を 嘆く
遂に 聞く 海空 砲爆の 轟き
地は 裂け 山は 碎けて 島形 改まる
時に 健なる 哉 学園の 乙女
紅唇 硬く 結んで 殉国を 誓う
報国の 純情は 凝って 鉄の 如く
花顔 纖肢 防戦に 当る
鮮血は 花を 染め 弾片 飛ぶ
友は 斃れ 肌は 裂けて 心魂 尽きたり
相抱き 相擁して 血涙に 咽び
遙かに 東天を 拝して 全員 玉碎す
嗚呼 春 尚 浅し 桜花の 蕾
天は 非情を 傷みて 風声 憂う
哀切 限り 無し 姫百合の 塔
可憐 人をして 千歳に 泣かしむ

解説 看護要員として戦場に動員され、亡くなっていた、ひめゆり学徒隊の慰霊塔を詠じた詩。

語釈 ※連戦Ⅱ続けて戦うこと。 ※絶海一孤島Ⅱ沖繩をいう。 ※空拳Ⅱ手に何も持っていないこと。 素手。 ※島形改Ⅱ島の形が変わってしまうこと。 ※健Ⅱすこやか。 ※殉国Ⅱ国家のために生命を捨てて尽くすこと。 ※報国Ⅱ国家の恩に報いること。

※心魂Ⅱ心意気※血涙Ⅱひどい悲しみやいきどおりのためになる涙。 血のなみだ。 ※咽Ⅱ息を詰まらせながら泣く。

※玉碎Ⅱ全力で戦い、名誉・忠節を守って潔く死ぬこと。 ※桜花蕾Ⅱ ※千歳Ⅱ長い年月。 ※Ⅱ

通釈 第二次世界大戦の戦いは優勢でなく日本が危うい。 戦争は急変し沖繩の空を覆い尽くす爆撃機。 絶海の一孤島はむごたらしくなり、島民は天を仰いで、何も出来ないことを嘆くのみである。 遂に空から海からの砲爆が始まり、その音が轟き始めた。 地は裂け、山は碎け、島の形は無残にも変わり、看護要員として戦場に動員された沖繩模範学校女子部の乙女達は、唇を固く結び、国の為にと誓いを立て、その心は鉄の如く硬く、美しく、しなやかな少女達が揃って對抗したが、弾丸によって肌は裂け、鮮血が流れ友は、ばたばたと斃れ始めた。 友人を抱き抱え血の涙を出しながら咽び泣き、遙かに東の天を仰ぎ全員玉碎した。 ああ、浅春の桜のつぼみは断たれた。 天は非情な仕打ちを傷み、吹く風の音も憂いをおび、哀れさに胸がしめつけられる。 この可憐な少女達の事を人々は長い年月語り継ぎ、涙を伴うことで有ろう。